

子育て中

聞きました

男性の育児参加が求められている現代、自分から進んで子育てを楽しむお父さんが増えているようです。その一方で、子どもへの接し方にとまどいを感じることも多いのでは？子育ては親も子もお互いを通して世界を広げ、成長し、絆を深めていくことができる貴重な時間です。それをどう充実させていったらいいのでしょうか？悩みやとまどいを経て、今、子育てをエンジョイしている市内在住のお父さんふたりにお話をうかがいました。



勝見大輔さん

(富士町在住)

自分から積極的に接しなければ
子どもとの距離は縮まらない

勝見さんは妻と3歳のお子さんとの3人家族です。積極的にお子さんとの日々を楽しみ、子育てに関心の高いお父さんとしてのご意見をうかがいました。

お子さんを育てていて 良かったことは？

子どもが、普段気にもとめないことに気付かせてくれることがあります。例えば季節感。一緒に散歩していて枯葉の上を歩くと、子どもが「枯葉が歌ってる」と言ったり。また、子どもがむずがった時や、なぜこんな発言を？と不思議に思った時に、推測したり学んだりして、自分の成長にもつながっています。また、仕事にも活かれます。若い世代の後輩たちとの接し方、コミュニケーションのとり方に大変役に立っています。子育ては好奇心を満たしてくれると同時に、楽しいですね。

負担に思うことや悩みは？

仕事の関係で、子どもが1歳近くまでアメリカに単身赴任しました。この時期、子どもの成長を間近で見られなかったことが原点にあります。その後、妻も渡米して、数か月現地で一緒に暮らしました。働き方を工夫して家庭を大事にしようという雰囲気がありましたので、ゆっくりと家で夕食をとったり、子どもと遊んだりできました。帰国後は、平日あまり時間がとれない分、妻から一日の話を聞き、週末は極力子どもと一緒に過ごすようにしています。妻は平日は子どもと二人ですと過ごしているのですが、週末くらいは子どもと離れて外出できるように、私が子どもと過ごすようにしています。特に負担には感じませんが、理屈ではない子どもの世界に時に疲れることもあり、例えば、児童館などでわずかな時間でも子どもを見てくれて、一息つけるといいなあと思うこともあります。知らない人に預けることは不安もあるので、閉鎖的でなく、預かる人の負担も少ない方法が望ましいと思います。